

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 第2回座談会「公民館の未来」

4.5

- 2 トピックス 「来年度計画決定 中・下越地区代議員会」
- 3 視点 「社会教育は、いま」 新潟県生涯学習協会・菊池 三男
- 3 ひろば 「魚沼の自然の中で」 魚沼市・松原 孝
- 6 実践記録シリーズ 新発田の伝統文化「市民茶会」 新発田市中央公民館・井浦 尚子
- 7 サークル交流 「音楽好きな仲間たち」(新潟市) / 「民踊と私」(妙高市)
- 7 素顔拝見 宮下 奈那さん(新発田市) / 渡辺 一明さん(南魚沼市)
- 8 お元気ですか 糸魚川市・清水比呂美さん
- 8 恵贈資料紹介



ふれあいコンサート (湯沢町)

表紙解説

10月7日(日)に湯沢町公民館で開催された「ふれあいコンサート」
地元でコカリナ演奏、コーラス、ハーモニカ演奏、津軽三味線・尺八演奏、ギター・フォークソングなど音楽活動をしている方々のコンサートです。今年で8回目を迎えました。

来年度計画決定 中・下越地区代議員会

下越地区

第2回代議員会開催

本年度の第2回下越地区公連代議員会が11月13日(火)に下越教育事務所で開催されました。下越教育事務所・里山正信課長の挨拶の後、次の協議が行われました。

1 報告事項

- ① 県大会糸魚川大会
- ② 下越地区社会教育研究会 会兼下越地区公民館役員等研修会
- ③ 下越地区公民館職員研修会

それぞれ事務局から説明がありました承されました

2 協議事項

- ① 平成25年度下越地区公民館役員等研修会兼下越地区社会教育研究会の開催について
- ア 期日
平成25年10月3日(木)～4日(金)
- イ 会場 佐渡市
トキの村元気館

- ② 第54回関東甲信越静公民館研究大会兼第64回

新潟県公民館大会の開催について

ア 期日

平成25年8月29日(木)～30日(金)

- イ 会場 南魚沼市民会館
- ウ 分科会

下越地区は分科会を新発田市が担当

3 確認事項

- ① 新潟県公民館大会の開催地順及び下越地区事例発表順について
- ② 平成24年度各市町村下公連事務局及び代議員一覧表について

次の市では新しい代議員(中央公民館長)が就任しました。

- 阿賀野市 見原健司
- 佐渡市 小林泰英
- ③ 平成25年度社会教育団体等大会について
- ④ 平成25年度下公連負担金について

4 その他

県公連情報
田原事務局長が、主に、関プロ新潟大会の参加要請

や参加態様、参加費について説明しました。

中越地区

第2回代議員会開催

中越地区第2回代議員会が11月30日(金)に柏崎市プラザで開催されました。

平成24年度事業報告、会計決算中間報告の後、来年度事業等の協議が行われました。

1 平成25年度事業計画

- ア 地区研究大会は関プロ大会と兼ねる
- イ 地区職員研修会
7月実施
長岡主管
- ウ 地区館長・主事・公連審研修会
11月実施
十日町・津南主管

2 来年度地区役員

任期2年の2年目。変更なし

3 研修主題、負担金

原案どおり承認

4 関プロ新潟大会の主管について

8月に南魚沼市で開催される大会を中越地区が主管する

ことを武樋会長が確認して、事務局長から役割分担、参加要請等の説明がありました承されました。

田原県公連事務局長が、主管のお願いと協力についての要請後、一部日程の変更についてや参加料の変更理由等について説明しました。

開催地の南魚沼市と湯沢町からそれぞれの担当について説明がありました。

午後は、主事部会主管の研修会が引き続いて行われました。

代議員会 説明・呉井事務局長



「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部150円 年間1,800円(いずれも送料含)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301 中野プラザ107 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-266-7711

視点

社会教育は、いま

新潟県生涯学習協会・事務局長 菊池 三男



当協会は、昭和四十七年に発足しました。今年度「新潟県生涯学習協会」と名称変更しましたが発足当時の理念「社会教育・生涯学習の振興普及をはかり、郷土の発展に寄与することを目的」に活動しています。当時、各市町村では、公民館を核として家庭教育学級や青年・高齢者等、各期を対象にした事業や講座が活発に行われていた時です。

協会も「これからの社会教育」「生涯学習振興大会」「ボランティア養成講座」「読み聞かせセミナー」など、種々の事業や活動、講座を継続的に展開してきました。

平成に入るとやや社会教育行政の流れは、国や県、市町村でも生涯学習が主役になり、公民館が担ってきた社会教育の影が薄く、〇〇センターに衣替えしようとしている感じがします。社会教育・学校教育・家庭教育は、人づくり地域づくりに必要な教育です。公民館はその重要な施設です。地域や子どもたち、高齢者の現況を思うにつけ、社会教育の主役はやはり公民館であるべきです。

当協会は、これからも行政や関係団体と連携し、地域の発展に寄与する事業を地道に推進したいと考えています。

H O T N E W S

掲 示 板

〈会議の予告〉

例年、新潟市で開催していた「新潟県公民館連合会 第2回評議員会」を、会場を移して下記により開催します。関東甲信越静公民館第3回理事会を南魚沼市で開催することから、同一日、同一会場にしました。

期日：平成25年2月15日(金)

会場：南魚沼市民会館2F会議室

日程：9：30～新潟県公民館連合会

理事会

10：30～新潟県公民館連合会

評議員会兼アブレ

実行委員会

13：30～関東甲信越静公民館

第3回理事会

(県公連会長、事務局長参加)

* オブザーバーとして中越会長、南魚沼市、湯沢町、中越事務局が参加

その他：理事、評議員、事務局の交通費は実行委員会事務局が負担します。

魚沼の自然の中で

ひろば

魚沼市社会教育委員 松原 孝

風にそよぐヤチダモの梢でクロツグミがのどかにさえずる。清らかな水辺ではコロンソウの愛らしい花が揺れ、イワナの影が元気に遊ぶ…。

新潟県立浅草山麓工コミュージアムは、越後三山只見国定公園の中に、自然観察・体験を目的につくられ、魚沼市が管理する施設である。

さらに現在、林野庁と市により新設中の「遊々の森」遊歩道は、広さは実に東京ドームの約50倍。一部は来シーズン供用が開始される。新旧のフィールドは、

十五分から数時間コースまで、バリアフリー・コースなどもあり、安全にありのままの自然にふれることができる。夏は平場より4℃5℃も気温が低く、その爽

やかさは格別である。

センターは、ミュージアムとしての諸設備が整い、家族連れでも楽しめる。学校の利用も多い。市内外や、東京都江戸川区の小中学校からの子どもの歓声に、指導にあたるスタッフも張り合いのある時を過ごしている。

新潟県立浅草山麓工コミュージアム——今 深い雪の中で、あの滴るような新緑の季節が巡ってくる日まで、静かな眠りについている。



「公民館の未来」

の美術展が終わった後の運営委員との打ち上げ、雪まつりの終わった後の地域の人たちとの打ち上げを公民館職員と行うなど公民館で飲み語らう機会が今でもありますが、以前はもっと多かったです。が、世知辛い世の中なのか徐々に公民館で酒を飲むとは何事かという雰囲気になってきています。(ソフトドリンクでも構わないのですが)飲食しながらわいわいと飲んで語る機会を意識的に作ってゆく必要はあると思います。

(田原) 都会の公民館、高橋さんはいかがですか。

(高橋) 私も地域の人たちが公民館に来てお茶を飲みながら雑談することはとても大切であると思います。そこを出発点にして地域の希望・問題を話し合い、課題の解決や取り組みに向かうことができると思うので、そのように地域の人と公民館職員が信頼関係を築いていく必要があると感じています。私も石山地区公民館で「お茶飲み」を行いたいのですが、昨今の世情的になかなか難しいところではあります。時折しか「お茶飲み」はできないのですが、やはり公民館は地域との信頼関係づくりが大切なので、利用団体やコミ協の人たちが来館した際には会話を持つように心がけています。

(藤井) 私が先ほどお話ししたのは、ほんの一人か二人の少人数のことです。本当に気軽に寄ってもらえてお茶を飲みながら話をし、そこから情報を集めるとか。堅苦しいことはしないで会議もにこにこした雰囲気にならないと公民館に足が向かないと思います。

(小川) 藤井さんの意見に同感です。私は地区公民館の勤務は無いのですが、私が勤務している十日町市の中央公民館ですと、公民館の利用団体や公民館が事務局をしている団体の役員が事務室を訪れて話をしていくことがありますし、地区館あたりですと地域の人たちが入ってきて茶飲み話をしてゆくことがあるようです。その何気ない茶飲み話を地域の情報や市民が困っていることが分かる良いチャンスだと思うか、それとも事務仕事を行う時間を取られてしまったと思うかは、その職員の感性にもよりますが、公民館がどういう役割を果たさなければならないかということを理解していないと、そういった茶飲み話を仕事の邪魔ととらえる態度を取ってしまうと思います。そういう態度を取り続けていたら地域の住民は公民館に足を向けてくれなくなってしまうと思います。

(高橋) 館長が地域の皆さんに愛される公民館になろうという方針なので、館内で挨拶をしましょう、人が来たら声を掛けましょう、対応しましょうと話し合っており、職員がすぐに対応している館だと思います。公民館によって対応が異なるのは、公民館職員は地域のコーディネーターである、という職員としての理念を考えている職員なのかどうかで違うと思います。

(田原) 今、必要とされているのは人との絆づくりです。このことと公民館についてはいかがですか。また、職員の考え方はどうあればいいですか。

(高橋) 子どもが事業や地域の真ん中にあると地域は繋がりがやすいと思います。コミ協も動くし、育成協も動くし、公民館も動くし、親やPTAもみんな動いていく。その際にそれぞれを繋げ、コーディネートしていくのは公民館の出番だと思います。

(藤井) 高橋さんの言うとおりの、「子どもが真ん中にある」ということは公民館としては大切なことだと思います。加えて、公民館で学習したことを子どもたちやまちづくりのために使う場がない。それを提供する公民館でなければならないのではないのでしょうか。そうでなければ、カルチャーセンターと変わらない。

(小川) 事業を企画する側としては当然そこまで(=学習したことの活かし方)考えて、企画しているかということが大切です。(人事異動で)この春に公民館に戻ってきて、引き継いだ事業が一体何のためにやっているのか、地域がどう良くなるのかという点が全然見えてこないことがあり、それでは困ってしまいます。先に言及した市民活動の点でいえば、公民館であるテーマの講座を行ったとしたら、その人たち(=受講生)だけで無理やりグループをつくらなくても、市内にそのテーマに関連したグループがありますので参加してみてもどうかと(公民館職員が)繋ぐ役もできるだろうし、講座の中でそういった団体の取り組みを取り上げてゆくこともできると思います。公民館職員としては、そういった姿勢で仕事をして行かなければと思います。

(田原) 公民館の未来、こんな公民館があれば最高!を一言ずつ。

(藤井) 現在の上越市には20以上の公民館がありますが、すべて同じではなくそれぞれの特長を生かした公民館であればと思います。予算には限りがありますから、地域の人たちと助け合い、そうすれば絆がもっと深まるのでこういう考えで進めたいと思います。

(小川) イメージになりますが、地域の人たちが一緒にこんな事業をやらせようよと声を掛けてくれる公民館。そのように声を掛けてもらえるということは、声を掛けたり相談したりすれば必ず応えてくれると地域から信頼されている公民館だということです。そして、その声掛けに対して「良いですね!ぜひやりましょう!」と笑顔ですぐに返事ができる公民館でありたいと思います。そのようなやり取りをしなから地域をどうしてゆきたいか、どういう地域になってゆきたいか、地域の人たちと一緒に考えられる公民館にしてゆきたいと思います。それは、NPOの様なテーマ型の団体に対しても、町内会や青年会や消防団のような地縁的な団体に対しても同様です。

(高橋) 社会教育は人がこういう自分になりたいという自己実現の場でもありますし、また地域の人と繋がる場でもありますから人が幸せになるためのお手伝いをする仕事だと思います。この社会教育の理念を熱く胸に秘めて、行政の他の部署や周りに向けてしたたかに対応しながら、市民にはいつもニコニコ親切に接して、「〇〇公民館の何々さんに話に行こうかねえ」とか「話しているとなんだか気持ちがいいんだよねえ」と感じてもらえるような職員がもっと増えたら良いと思います。今、新潟市の嘱託職員の間で勉強会をもっているのですが、そんな熱い理念をもった職員が増えると良いと話合っています。

(田原) ありがとうございます。まだまだお話を聞きたいところですが時間が来てしまいました。本日は貴重なご意見をいただきありがとうございます。

特集

第2回座談会

10月の第1回に続き11月29日(木)に「第2回座談会」を新潟市中央公民館で開催しました。

テーマは新春号にふさわしい「公民館の未来」で、若い人、女性、ベテランの3人のメンバーで2時間に関わり意見交換をしました。

座談会メンバー 藤井清比古(上越市中郷地区公民館)
小川 清貴(十日町市中央公民館)
高橋 梓(新潟市石山地区公民館)

司会 田原 理(県公連事務局長)

記録 佐藤 武晴(新潟市新津地区公民館主査)

(田原) 本日はお忙しいところ座談会にお出でいただきありがとうございます。本日は若手、ベテラン、女性の3人のメンバーで新春1月号にふさわしい「公民館の未来」というテーマでお話を伺います。ふだん考えていることを自由にご発言ください。



前半は、自己紹介を兼ねて現在勤務されている地区、地域の現状を、後半はこれからの公民館はどうあるべきか公民館の未来を語っていただきたいと思います。

最初のテーマは「公民館の現状について」です。

(藤井) 教員退職後、旧中郷村で公民館長を務め現在協力員をしています。

旧中郷村と上越市では公民館のあり方が異なっていました。中郷村時代は、「人づくり、まちづくり」で予算は潤沢でした。今はソフト面での財政が厳しくなってきましたが、今私がやっていることは、予算が少なれば地域のいろいろな団体と一緒に活動しようということ。幸い、上越市では地域青少年会議(中郷では「中郷の子どもを育てる会」)が根付いているので、この会と公民館が共催しながら青少年事業の充実を図っています。また、地域の人材を生かして特性を捉えた事業を展開しています。



(小川) 今年36歳で年男。現在、中央公民館の事業としては「青年学級」を担当しています。

この「青年学級」は60年以上続いているものです。最近では、公民館の利用団体や公民館が事務局をしている団体だけではなく、普段、公民館の外で活動している団体とも結びつきをもって事業を組み立ててゆく必要があると考えています。公民館の外で活動している団体のことについて聞かれて、「公民館にそんな団体のことを聞かれてもねえ」という反応をする職員もいますが、それではダメだと思います。そのためには職員が地域の情報に鋭くアンテナを立てておくことが大切です。いずれにしろそのような形で事業を組み立てて行かなければならないし、



組み立てたいと思っています。

当館の館長の発案ですが「とおかまち未来暖議(だんぎ)」(注:造語)という事業を始めたいと話しています。これは従来のように公民館側が一方的に学習課題を提示するのではなくて、みんなでわいわいとワークショップのような形で生活上困っていること・悩みを持ち寄って、そこから学習課題を探し出し、それを事業化しようという構想です。今年度中にはみんなで話し合うところまで進行させる計画です。

(高橋) 出身は旧川西町(現十日町市)。川西町で過ご

していた時は公民館という巡回の映画を見に行く位しか接点がありませんでした。大学進学で新潟市へ。大学時代は「まなび屋」という、大学生と公民館と大学



が協力して、地域の子どもたちを対象に学校では学べない学びやイベントを行う活動をおこなってきました。(注:現在でも新潟市西地区公民館と新潟大学教育学部が連携して活動している。)この際に公民館職員・公民館の利用団体・市民活動団体と関わって活動してゆく中で公民館に興味をもち、新潟市の公民館で嘱託職員として現在勤務するに至っています。公民館で勤務する以外にも個人的に「NPO法人まちづくり学校」等でも活動しています。

現在所属する石山地区公民館はコミュニティ協議会・民生委員・育成協などの地域の活動が活発な地区で、例えば小学校の地域教育コーディネーターやコミ協と公民館が共催で講座を行うなど、地域の団体とよく連携している活発な公民館であると思っています。また私は、公民館(職員)はもともと地域のコーディネーターであると考えています。

(田原) ありがとうございます。次は、もうすでにふれられて述べている方もいますが、これからの公民館はどうあるべきか、公民館の未来について伺います。

(藤井) 私も公民館職員は地域のコーディネーターであると思います。私は、地域と学校を結ぶ地域教育コーディネーターの力も借りながら住民が気軽に寄ってもらえて、その話の中から情報を集めて事業を企画出来る公民館が必要だと思います。今の若い人たちは、公民館に関心が薄くカルチャー的な事業に興味を集中しているのではないかと思います。「地域の活性化」という現代課題に対しては反応が今いちです。私の地域で特に注目しているのは、中・高校生が地域の事業に参画して、大人と一緒に知恵を出して汗を流して活躍していることです。そこから大人が子どもたちを高く評価するようになりました。このように若い人を育てていかないと地域のつながりが途切れてしまいます。地域につながりがあって、都会から自分の町に帰ってきたときに自分の居場所があることが「ひとづくり、まちづくり」になるのではないのでしょうか。

(田原) 地域のつながりをつくる公民館という点について、小川さんはいかがですか。

(小川) 青年学級の行事が終わった後の打ち上げ、市

実践記録

178

シリーズ

新発田の伝統文化「市民茶会」

新発田中央公民館 井浦 尚子

1. 新発田市民茶会とは

市民茶会は、新発田市の清水園を中心会場として毎年10月の3連休の中日に行われるお茶会です。



主催は中央公民館で、共催の新発田市文化団体連合会に加盟している茶道団体の先生方が実行委員会を組織しています。市民茶会開催の歴史はかなり古く、長きに渡りお茶に携わっておられる先生にお聞きしても、40年前には既に開催していたということを確認できたのみでした。それでも市で開催している茶会の中では群を抜いた歴史の長さで、正式な回数を把握できたらさぞかし感慨深い茶会の歴史を垣間見ることができたであろうと悔やまれます。

[今年度の概要]

日時 平成24年10月7日(日)
午前10時～午後3時30分
会場 清水園(上の間・舞台の間・桐庵・翠壽庵・同仁齋・米蔵・武家屋敷・足軽長屋)
石泉荘(離れ座敷)
茶席券 前売り:2席で1,100円(当日券:1,200円)

2. 新発田の茶道と和菓子の歴史



新発田は、廃藩置県(明治4年)までの約270年間にわたって溝口侯が治め城下町として栄えてきました。歴代藩主が茶道を重んじた流れをくみ、新発田藩茶道を正しく伝承している石州流越後怡溪派をはじめとした茶道が大変盛んです。市内には清水園・石泉荘のように新発田藩の繁栄の面影を残した建造物が多くあり、引継がれています。

お茶にかかせない和菓子についても、市内に数多くある和菓子店はそれぞれ伝統と個性を持っています。茶会のお菓子は既成のものではなく、各席主と和菓子屋さんが何度も試作を繰り返して色や形・名前を決め作りますが、市民茶会会場入口では、その心づくしのお菓子を一堂に展示します。どこの席に入ろうかとお菓子を楽しげに見比べるお客さんの姿を見ると、茶道経験者以外にも広く茶会を楽しんでもらえているのかな、と嬉しく思います。

また遠方からのお客さんについては、茶会でのお菓子がおいしかったからと帰りに新発田の土産として買い求める方も多いそうです。そういった意味では茶会は市の観光PRの一環も担っているのかもしれません。

3. 今年度の成果と来年度への課題

今年度の実績としては6流派9席主の参加で入席者数は延べ1,800人ほどでした。入席者数は昨年並みですが、9席は近年では最大の席数です。そのうち清水園内に8席を設けました。にじり口の正式な茶室をはじめ、武家屋敷、足軽長屋、米蔵など各部屋にはそれぞれ違った趣があり、各席主の心づくしとあいまって独特の雰囲気を出し、ひとつとして同じ茶席はありませんでした。

今年の天候は降ったりやんだりの小雨でした。席数が増えたのに入席者数が昨年並みである一番の理由かと思えます。しかし雨にしっかりとぬれた庭の木々の緑は大変美しく、晴れの日のはまた違った味わい深さがありました。訪れた方も傘こそさしていましたが、歩を早めるでもなく雨独特の静けさを許容しているようにも思いました(裏方としては雨は涙がでそうなくらい残念でしたが…。てるてる坊主への祈り方が足りなかったのかも知れません)。

また、今年は清水園から徒歩で5分の石泉荘離れ座敷を初めて会場に加えしました。石泉荘は国の登録有形文化財になっており、普段は予約制で見学可能です。当初は徒歩5分という距離がネックになり人が流れないのでは?と心配しましたが、茶席券のみで見学とお茶をいただけるからと予想以上のにぎわいと反響がありました。むしろ一時入場制限をかけた方がいいのでは?という話ができるほどだったので、待合・雨対策等来年への課題にしたいと思えます。

4. 心がけていること・担当しての感想

市民茶会が市の事業の中で持つ意味を思うと、市民茶会開催には茶道人口の増加を図る目的だけにとどまらず、新発田市のよき伝統文化の継承を披露して歴史に新たな一歩を刻む、という意味合いも強いように思います。



それを頭におき「長い伝統と歴史のある茶道の重みを生かした事業展開」と、「普段なじみのない人にもお茶を楽しんでもらいたい気持ち」という、ともすると両極にあるものをいかに自然に融合させるかが、難しいけれどやりがいのある部分です。

市民茶会が、茶道経験者にとっては「日頃の稽古の披露の場」として、普段なじみのない人にとっては「気軽に茶に接することのできる場」として成り立ち、相乗効果をもって茶会全体が盛り上がるように、よきファシリテーターでありたいと思っています。

皆さん10月3連休の中日はぜひ、新発田市民茶会へ足をお運びください。



初めまして、ブルースカイズと申します。バンド結成して35年近くになります。もはや平均年齢は60才を越える程になりました。音楽大好きな仲間達と月2回の練習をし、主に老人ホームのボランティア、公民館の行事の参加、社交ダンスの演奏などを中心に練習の成果を発揮しております。年令と共に楽器の移動がつかく感じる時もあったりしますが、現在の公民館は冷暖房完備で、音楽室は楽器も充実して音響も良く、とても快適に使わせて頂いております。

音楽好きな仲間たち

田中利男&ブルースカイズ

す。先日ダンスパーティーの折、参加の方々よりとても踊り易かったと言葉を頂き、感無量でした。これからも公民館の一員として、皆さんに喜ばれるよう練習していきます。

新潟市ブルースカイズ代表
田中 利男 記



民謡と私

新井民謡(踊)保存会

昭和43年民謡同好会として発足以来45年をむかえます。

地元民謡は親しみ易く、楽しく仲間づくりにも最適で、それが地元文化を育んでいる事がすばらしい。ストレ



第9回新井民謡(踊)保存会発表会

妙高市新井民謡(踊)保存会
杉本 精一 記

スの解消、体力の維持向上と認知症にもなりにくく心身両面の健康維持に役立っています。活動場所は公民館や公設の集會室等を使用させて頂いているので長続きしてまいります。保存会の傘下に市内各地10団体100人位の支部があり地区公民館はじめ部落集會場等で楽しい仲間づくりをして楽しんでいきます。自分の健康は自分で守るをモットーとしてこれからも出来る限り続けていきたいと思っています。

10月から中央公民館に配属になりました。渡辺さんを紹介します。4月から9月までの半年、塩沢公民館での勤務を経て、現在、中央公民館で働いています。市民セミナーや高齢者学級など一般の人たちから高齢者まで幅広く事業を担当しています。公民館業務は始めてですが、いろいろなアイデアを出し、市民から多くの参加を得ています。

彼の得意技は「整理整頓」、なかなか手がつかなかった貸

南魚沼市中央公民館
渡辺 一明さん



出物品の管理やフォルダ等、積極的に整理してもらいありがたいです。

様々な分野の職場を経験してきて、いろいろなことを知っているので、重宝しています。これから公民館研修などにどんどん参加して、社会教育の分野でも活躍を期待しています。

(南魚沼市中央公民館 石田洋一郎 記)

「自動車運転はオートマ限定!なので…公民館トラックの運転は無理。しかし…仕事は何でもOK!無限大です」中記。「今時めずらしく礼儀正しくしっかりした方ですね。初心を忘れず頑張ってほしいと思います」松記。「いつも元気に楽しく、完璧に仕事を行う彼女は公民館のムードメーカー!新採用からもうすぐ2年。これからも地域を愛し、愛される職員でいてください」齋記。「みんなに先越されちまってオラ

新発田市加治川地区公民館
主事 宮下 奈那さん



~書くことねえ〜ど…ンッ?いいことだけ書いても本人のためにならねど。ごはソソマ、心を鬼にして…(長考)」「人生、全て順風満帆なんてエことは絶対ねえど。失敗を肥しに人間は逞しく成長していくんだ!若ゲウぢだ、いっぺチャレンジしていっぺこと失敗しろ〜!!

(新発田市加治川地区公民館長 中野 廣衛 記)



恵贈資料紹介

「文芸むらかみ 第3号」

本書は、村上市民及び村上市出身者の寄稿で構成されています。

市町村合併後の第3号の発行で平成24年度版となっています。

全編241ページに219作品が掲載されていて、これまでより多くの作品が寄稿されました。

内容は、〈随筆1部、2部〉〈短



歌〉〈俳句〉〈川柳〉〈詩〉〈コント〉の他に特別寄稿として〈ふるさとへの思い、ふるさとへの便り〉が掲載され多種多様な作品構成になっています。

発行 村上市教育委員会
編集 文芸むらかみ編集委員会

問い合わせ

〒958-0251

村上市岩沢5668番地

村上市中央公民館

「文芸むらかみ」事務局

電話

0254-72-6700



事

事務局長のつぶやき
本紙も今号で719号になりました。1号からの電子データ化も3年目を迎え、すべてを3月までに終了する予定です。同時に、更新が遅れているホームページにアップロードします。いつでも閲覧

可能になりますのでご覧ください。
本年は巳年。巳は金運の象徴とか。恐ろしいですが、みつけてみようかなどと愚かな気持ちを抱いています。本年も公民館月報をよろしく願っています。

(田原)

お元気ですか



元西海地区公民館 副主事 清水比呂美 (糸魚川市)

ゆとりのある生活

約10年間勤務した地区公民館を退職してから3年が過ぎようとしています。

退職して間もなく、義父が病に倒れ闘病生活が始まりました。約1年間は病院通いの生活でしたが、公民館に勤務していたときに比べて時間的にはゆとりがあり、最期までしっかりと看取ることができました。

今は一人暮らしの母たちが元気に暮らせる手助けをしながら、自由になる時間を見つけては主人と遠くへの旅行に出かけることを楽しんでいます。

また、大好きなバドミントンも週に2回の練習に励み、市の大会などにも参加して、年齢と共に低下する体力を現状維持したいと願う仲間たちと楽しく時間を過ごしています。

以前の仕事や子育てに無我夢中で時間に追われた生活も楽しく日々充実していましたが、これからは時間や心にゆとりを持ち、人との出会いを大切にしながらゆったりと過ごしていきたいと思っています。

information

〈全国セミナー〉

11月に各市町村に配信した「全国公民館セミナー」(1/23~25東京開催)の参加応募があり、新潟市から2名の参加が決まりました。

〈いじめ根絶県民会議〉

第2回いじめ根絶県民会議が下記により開催されます。県公連は当会議の構成団体です。

日時 平成25年1月31日(休)午後3時~
会場 新潟県教職員組合会館 大会議室
新潟市中央区新光町7-4

雪によって生ずる諸問題解決のため、取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊かな土地、水資源良好な自然環境等に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。

協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長(妙高市長) 入村 明(会員18市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)

TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135